

## ⑥3 主要地方道相馬亘理線「坂元・山寺復興道路」 ～多重防御を担う嵩上げ道路～

受賞機関 宮城県 仙台土木事務所

キーワード 多重防御機能、津波減衰効果、ICTを活用

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

移設したJR常磐線の旧鉄道敷きを活用した高盛土構造の道路整備。津波のエネルギーの減衰や被害の軽減に繋がるとともに、ICTの活用により施工の省力化や効率化に取り組んだことが評価された。

## 1. はじめに

東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた仙台湾南部の宮城県亘理郡山元町では、多重防御施設による減災を踏まえた復興まちづくり計画を策定した。これを受けて、宮城県では、沿岸部を縦断する主要地方道相馬亘理線（全長約32km、起点：福島県相馬市、終点：宮城県亘理町）の一部を盛土構造（計画道路標高：T.P+4.0m～T.P+5.0m、現況地盤からの盛土高さ：2m～4m）で改築することで、津波減衰効果を有する多重防御施設として機能させ、背後に形成される新市街地での建物被害の軽減や避難時間の確保を図ることとしたものである。

本事業は、平成24年度から復興交付金を活用して整備を進め、令和3年3月26日に全線が開通となった。

## 2. 事業の概要

事業区間は、宮城県亘理郡山元町坂元字磯作地内の福島県境を起点とし、同郡亘理町との町境付近で多重防御機能を持たせた嵩上げ道路である町道橋本堀添線（下図※注-1）と接続した後、現道の道路高さにすり付く地点である同郡亘理町吉田字南上地内が終点となる。

起点から現道と交差する山元町道山下花釜線までの延長8.8km区間はバイパスルート（下図※注-2）としており、その内、高瀬川排水路右岸付近までの7.5km区間（下図※注-3）は旧JR常磐線の廃線路敷を活用している。残る終点までは1.3km区間（下図※注-4）をバイパスにて現道へ接続し、その後の2.4km区間（下図※注-5）は現



「坂元・山寺復興道路」事業の概要図

道敷を活用するルートとなる。

工事では主要工種の盛土量が約90万m<sup>3</sup>となることを踏まえ、平成29年度よりICTを活用した三次元起工測量、盛土転圧管理、法面整形などを実施しており、建設業における担い手不足が進行する中で、施工の省力化・効率化による生産性の向上や、就労環境の改善を目指した。

## 3. 事業の成果

本事業の完成により、盛土構造による多重防御施設として、復興まちづくりの骨格を形成し、背後地の津波による建物被害の軽減等の効果が期待されるほか、避難路として整備された横軸の町道等を通じて、内陸の一般国道6号や常磐自動車道へアクセスすることで、大規模災害時の避難救助活動や緊急物資輸送を担う防災道路ネットワークの形成にも寄与する。加えて、仙台湾南部地域を南北に縦断し、福島県へ至る重要な幹線道路として、十分な車道幅員や歩道の整備により、従来よりも安全かつ円滑な交通の確保が図られる。



完成した「坂元・山寺復興道路」の様子

## 4. おわりに

山元町では、新市街地の内陸移転や農地の復旧が進捗し、新たなまちの姿が形成されている。また、平成31年2月にオープンした『やまもと夢いちごの郷』では、

まちの特産品である「いちご」や「ほっき貝」をはじめ地元の農水産物の販売で賑わいを見せており、復興の進捗を実感するところである。今後も地域の産業や観光交流が持続的に発展し、「誰もが生きがいを実感し、安心して暮らしていける地域」につながる道路として活用されることを期待したい。

賛助会員 日建工業(株)、(株)橋本店、東日本コンクリート(株)、(株)深松組、アジア航測(株)、サンコーコンサルタント(株)、大日本コンサルタント(株)、(株)復建技術コンサルタント、(株)福山コンサルタント